

ほほえみ

第57号(令和元年7月)
発行：小山市教育委員会



「いじめゼロ子どもサミット」(7年目)開催

期日:5月28日(火) 会場:桑市民交流センター(マルベリー館)

主体的な話し合いを通して、児童生徒が自らいじめのない明るく笑顔あふれる学校にしていこうとをめざして実施している「いじめゼロ子どもサミット」も今年で7年目を迎えました。

今年のサミットでは「それって、いじめのサイン?その時、あなたならどうする?」をテーマに、実行委員会(生徒代表)で挙げられた日常生活で見られる事例について「どうしていじめにつながるサインと考えられるのか」「サインに気付いたとき自分たちはどのように行動すべきなのか」について話し合い、それらを踏まえて改めて「いじめの起こらない学級とはどんな学級なのか」について確認しました。代表児童生徒の真剣に話し合う姿から、「自分たちの手でいじめを撲滅していこうという強い思い」が感じられました。サミット当日の様子を一部紹介します。

話し合い活動① ~「それっていじめのサイン?その時、あなたならどうする?」

「へんなあだ名で呼ばれ、 からかわれている子がいる。」

- ▲言っている子はいじめだと気付いていない。
- ▲「おもしろい」などとみんなに広まって、いじめになってしまう。

傍観者にならず、見かけたらすぐに話を聞いて、注意したり助けたりできるようにする。



「たたいたり、つついたり、 足を引っ掛けたりして遊んでいる。」

- ▲エスカレートするといじめになる。
- ▲やられた人がいじめと感じても言い返せない。

やっている人に注意する。先生に話す。
やられている人の相談にのる。

「授業中の発言を冷やかされたり、 失敗や間違いをからかわれたりしている。」

- ▲恥ずかしいと思っていることをからかわれてしまうと、そこにいることが辛くなってしまう。
- ▲考えをばかにされるのは差別につながる

自分の意見だけでなく、他の意見をひとつひとつ大切に、受け入れる心をもつ。

話し合い活動② ~いじめの起こらない学級って、どんな学級?~



- 「自分の意見をみんなが言いやすい環境」
「正しいことははっきり言える環境」
- ・上級生が正しい言動をする。
 - ・一人ひとりのことをよく知る。
 - ・全学級でいじめの起こらない「学校」にする。

「人を気遣える」
「思いやりの心をもつ」
「全員で注意し合う」
「見て見ぬふりをしない」
雰囲気づくり

- ・友達だからこそ悪いところはお互いに注意し合う。
- ・自分がされて嬉しいことを相手にもたくさんする。
- ・一人ひとりの先入観をなくす。
- ・クラス全員がお互いの個性を尊重し、認め合う。



実行委員からのメッセージ

※一部紹介



いじめは深刻な人権侵害です。ふざけていた、遊びのつもりだった、冗談だった、そんな深い意味はなかったなどのどんな言い訳も通用しません。今日の主題は「それって、いじめのサイン?その時あなたならどうする?」でした。答えはひとつではありません。私たちがこの問いについて考え続けていくことが、ひとつの答えなのではないでしょうか。

今日のサミットで話し合い、活動したことをこの場だけのもの、ここにいる48人だけのものにするのではなく、各学校に持ち帰り、全校体制で取り組むことで、自分たちの学校、そしてこの小山市からいじめをなくしていきましょう。そして、自分たちの学校を、一人ひとりが大切にされ、笑顔があふれる学校にしていきましょう。



子どもたちの思いを受け、大人としてどんな支援ができるか一緒に考えてみませんか?

『第41回 人権講演会』のお知らせ

- 日時：令和元年8月20日(火) 12:00開場 13:00開演
- 場所：小山市立文化センター 小ホール ※入場は無料です。
- 演題：「心をはぐくむ」

■講師：紀 恵理子 氏〔法務少年支援センター仙台(仙台少年鑑別所) 所長〕

※12:30よりロビーにてサミットや市民会議のパネル展示等の人権啓発活動があります。

※座席は自由席です。学校に事前申込みをされても座席の確保はございません。

※駐車場の台数には限りがございます。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

